

川崎市幸区の高ゲコガネ

鎌倉 正人*

A record of *Polyphylla laticollis* Lewis from Saiwai-ku, Kawasaki City

Masato HINAKURA*

ヒゲコガネ *Polyphylla laticollis* Lewis は、河川の高茎草地などに盛夏に出現する、夜行性の大型コガネムシ類である。神奈川県では多摩川や相模川のほか、湘南海岸からも得られている(平野, 2001)。特に、川崎の登戸一帯は、本種の産地として古くから知られている。

筆者が最初に観察したのは、多摩川に近い狛江市内の街灯であるが、後日、多摩区布田のオオブタクサなどが密生する高茎草地で、日没後藪の上を飛び回る、沢山の本種を見ることができた。タデ類などが茂る丈の低い中水敷では、飛翔する本種の姿はほとんどなく、また通常日中は発見できない。近くの住宅地に飛来することもなく、本種の行動を知らなければ、生息していても一般人は気付かないものと思われる。長畑, 1986は、大学の昆虫サークルの刊行物中で、相模川での本種の行動を簡潔に述べている。活発に飛び回り目につく個体の殆どは、雄のようである。

筆者は、幸区小向の路上で日中、車に踏みつぶされた本種の残骸を偶然見出し、現在もかなり下流にまで分布していると予想した。大田区田園調布付近では、1980年代の採集記録がある(木村, 1988)。そこで多摩区で探した要領で探索を試みたところ、本種の生息を確認できたのでここに報告する。

幸区小向の多摩川河川敷には、JRAの馬場や電波塔があり、その川よりに広い草原とヤナギの萌芽林が残され、干潟も残存している。従って、芝生や運動場の裸地の多い下流部において、自然度の高い地域であり、組織的な生物調査がされていないこともあって注目に値する。ヒゲコガネは、丈の高いヨシやオギ、ヤナギ類やオニグルミ・クワなどの低木の上に時折姿を見せるが、多摩区布田より数は少なく、高所を通過するので捕えにくい。

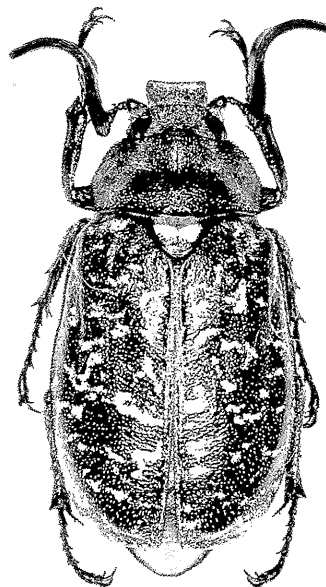
本種の生息と松林との関連は、話しが古くからあるが、はっきりした根拠がない。幸区や多摩区の産地では、近くに松林は存在しないか、あっても離れていて小さい。筆者は、富士川水系の笛吹川で、橋の灯火に飛来した本種多数に遭遇したことがあるが(未発表)、近くに高茎草地は広がっていても、松林は存在しなかった。本種の環境嗜好性や生態については、より深い追究が必要であろう。神奈川県レッドデータブックで減少種の扱いをされている本種だが、より多くの産地の発見を期待したい。

採集記録は次のとおり。

- 2♂ 川崎市幸区小向多摩川 15.VIII.2001
2♂ 川崎市多摩区布田多摩川 4.VIII.2001
いずれも鎌倉正人採集。

引用文献

- 平野幸彦, 1995. 昆虫篇 甲虫類. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書, 神奈川県立博物館調査研究報告 自然科学 第7号:212-254.
平野幸彦, 2001. 神奈川県のコガネムシ科. 神奈川県報 (134):33-71.
木村欣二, 1988. 東京都大田区における数種の甲虫の記録. 甲虫ニュース (83/84):7.
長畑直和, 1985. ヒゲコガネの観察. EXIMIA (1):18.



幸区で得られたヒゲコガネ

* かわさき自然調査団